

両沼地方稲作情報 第4号

令和7年6月11日

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所（電話0242-83-2113）
" 金山普及所（電話0241-54-2801）

J A 会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、
会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区



QRコード

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36243a/bangehukyu-9.html>

会津坂下農業普及所のHPでは、これまで発行した稲作情報を掲載しております。
その他、様々な情報を発信しておりますので、お気軽にご覧ください。

- 生育ステージに応じた水管理をしっかり行いましょう
- 土壌還元（ガス湧き）による生育障害に注意しましょう

1 気象情報

- ・経過 4～5月は、降雨が多く、4月下旬の一時的な高温を除き、気温は平年より低めで推移しました（図1）。
- ・東北地方1か月予報（6/7～7/6）
平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。平均気温は、高い確率80%です。

2 作業状況・生育状況

- ・作業進捗 低温による出芽の遅れ、降雨による耕うん作業の滞りがみられましたが、田植え作業は概ね平年並みに進行しました。
- ・初期生育 生育（出穂出葉）にやや遅れがみられますが、平年より草丈はやや長く、茎数は平年並～少ない傾向にあります（表1、前回（6月3日）調査より、生育は回復傾向）。

3 水管理（分げつ期～幼穂形成期）

（1）分げつ期

- ・浅水管理（水深3cm程度）で分げつを促し必要茎数を確保しましょう。入水は夕方から朝方に行い、日中は止水して水温の上昇を図りましょう。
- ・表層剥離や藻の発生が多い場合は、生育が抑えられるため、水の入れ替えを行いましょう。

（2）中干し（有効分げつ期～幼穂形成期前）

- ・必要茎数（目安 コシヒカリ20本/株、ひとめぼれ25本/株、天のつぶ20～22本/株）を確保したら中干しを行い、無効分げつを抑えましょう。
- ・中干しは、田面に1cm程度の亀裂が入る程度（足跡がつく程度）とし、幼穂形成期前（出穂期25～21日前）までには終了しましょう。
- ・中干し後は、はじめに走り水を行い、間断かんがいや飽水管理（ひたひた水状態）に移行しましょう。中干し期間に溝切りを行うと、中干しやその後の水管理が容易になります。

（3）幼穂形成期

- ・間断かんがいや飽水管理（ひたひた水状態）により根圏環境の改善に努めましょう。
- ・低温（平均気温20℃以下、または最低気温17℃以下）が予想される場合は、深水管理（水深10cm程度、幼穂が水に隠れるように）にして、幼穂を低温から保護しましょう。

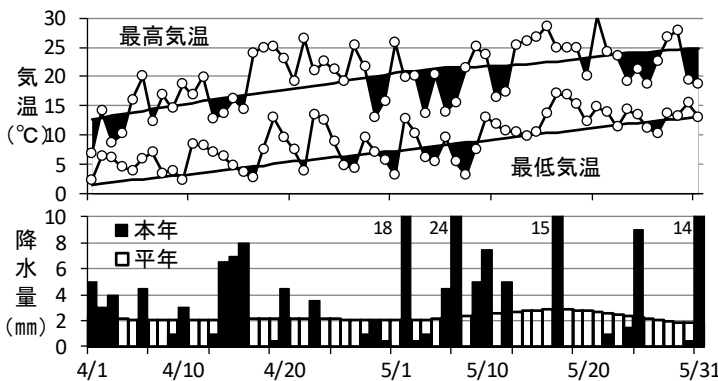


図1 気象の経過（アメダス若松）

表1 水稻作柄解析試験（会津地域研究所、6月10日調査）

品種名	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主穂出葉 (葉)	葉色 (SPAD値)
コシヒカリ	本年	32.8	243	6.7	38.3
	平年	30.2	277	6.9	35.6
	平年比	109%	88%	-0.2	2.7
ひとめぼれ	本年	29.6	283	6.5	35.1
	平年	27.7	280	7.0	37.1
	平年比	107%	101%	-0.5	-2.0
天のつぶ	本年	32.7	275	6.4	36.8
	平年	31.6	268	6.6	36.3
	平年比	103%	103%	-0.2	0.5

注. 5月20日移植、20.8株/㎡(30cm×16cm)植え

今からできる倒伏対策

◆ 土壌還元（ガス湧き）を解消し根傷み防止

土壌還元（ガス湧き）は根傷みを引き起こし、長引くと節間の充実不足や根張り不良となり、登熟期の倒伏要因のひとつになります。生育に影響がある場合は、一時的に落水してガスを抜き、根圏環境を改善しましょう。

◆ 中干しによる過剰生育の抑制、根の健全化

中干しは過剰生育を抑制するとともに、土壌への酸素供給により根が健全化され、倒伏が軽減されます。また、秋のコンバイン収穫作業に備えて地耐力も向上します。

降雨により中干し効果が十分に得られない場合があります。目標茎数が確保されたら早めに中干しを開始しましょう。

◆ ケイ酸カリ等資材施用により丈夫な稲体を確保

稲はケイ酸やカリを吸収することで、根張りが良く丈夫な稲体になり、倒伏しにくくなります。また、受光態勢が改善され光合成能力が向上し、食味向上にも繋がります。

ケイ酸・カリは生育後半（幼穂形成期以降）に多く吸収されるため、吸収が旺盛となる直前の出穂40日前頃の施用がより効果的となります。

4 病害虫対策

（1）いもち病

- ・会津地方における葉いもちの初発は6月下旬です。夏季の低温、多雨、日照不足で発生しやすくなります。置き苗は発生源になりますので早急に処分しましょう。
- ・窒素過多で過繁茂のほ場では、多発する可能性があります。ほ場内に葉いもちの発生を確認した場合、速やかに散布剤（液剤・粉剤）で防除してください。
- ・田植え時に箱処理剤（直播栽培では種子に塗抹処理）を使用していない場合は、水面施用剤（粒剤）等で防除してください。

（2）イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ

- ・主に葉を加害し、白色の加害痕を残します（図2、3）。
- ・被害が大きいと生育不良や分げつ抑制による減収の可能性があります。
- ・田植え時に箱処理剤（直播栽培では種子に塗抹処理）を使用しておらず、発生が多い場合は水面施用剤（粒剤）等で防除してください。

5 穂肥

- ・出穂25日前の生育を確認して、草丈が長く葉色が濃いほ場は、穂肥の量を減らすか、施肥時期を少し遅らせましょう。
- ・ひとめぼれ、天のつぶは、出穂25日前にチッソ成分2kg/10aを基本とします。
- ・コシヒカリは倒伏しやすいため、施肥時期を遅くし、出穂15日前にチッソ成分1.5～2kg/10aを基本とします。
- ・基肥一発肥料は基本的に穂肥を行いませんが、高温等により肥料成分が早期に溶出し葉色が低下している場合は、葉色に応じて穂肥を行う必要があります。



図2 イネミズゾウムシ(成虫)



図3 イネドロオイムシ(幼虫)による食害

○草刈作業が本格化する時期です。安全対策の徹底により、農作業事故を防ぎましょう。

○こまめに水分と塩分の補給を行い、熱中症を防ぎましょう。

○適切な水管理で節水に努め、用水の有効利用にご協力をお願いします。

葉いもちの感染好適日の判定
システム(BLASTAM)



QRコード、または、
“R7福島県プラスタム”
で検索